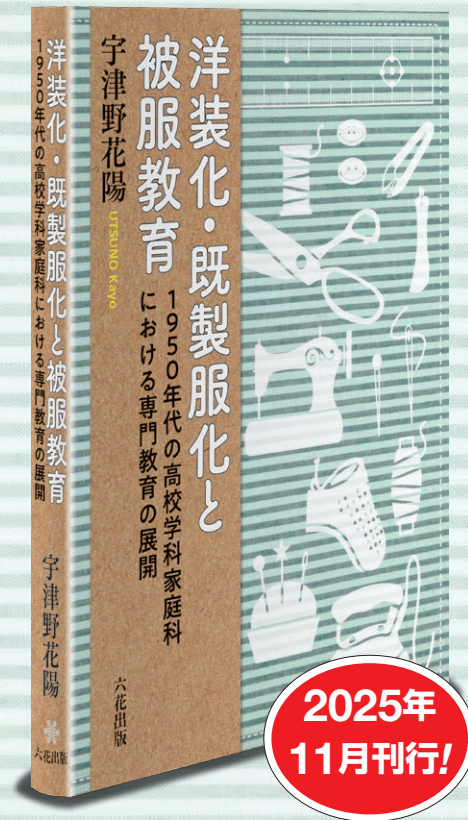


戦後の衣生活、ジェンダー、
地域差・階級差の実態から、
教育制度と実生活の相関を明らかにする。

洋装化・既製服化と 被服教育

1950年代の高校学科家庭科
における専門教育の展開



著 ● 宇津野花陽

A5判・上製・200ページ
定価4,000円＋税（税込4,400円）
ISBN978-4-86617-319-1

電子書籍版も同時刊行！

詳細は弊社HP電子書籍の案内ページをご覧ください

戦後、日本では洋装化・既製服化により家庭での衣服製作時間が縮小した一方で女性の職業機会が増えた。そのなかで制度的に職業教育として位置づけられた学科家庭科における被服教育はどのような機能を持ち得たのだろうか。

推薦
します

井上恵美子

戦後衣生活の実情からひも解く 学科家庭科における被服専門教育の役割

第二次世界大戦後の新制高校には、普通教育課程の教科である家庭科以外に、商業や工業などとともに職業課程として「学科家庭科」が新設された。本書は、従来あまり着目されてこなかったこの学科家庭科の小学科である被服関係学科に焦点を当て、1950年代という衣生活の洋装化・既製服化の進行する時期に、この被服の専門教育の内容と役割がいかに変化したかを明らかにした意欲作である。

この学科家庭科の被服関係学科は地方により設置状況が異なっており、本書は県ごとに丹念に調査し、その特徴を浮き彫りにしている。公立の「高校三原則」である小学区制・総合制・男女共学制とともに、就職・進学率、1950年代に増加した洋裁学校の普及率、繊維産業などとの関係での職業機会、子どもや保護者たちの教育要求の内実、生活時間から見える家庭生活の実態などを要因として取り上げ、それらの地域・階層による違いやその変遷を多角的・実証的に分析している。本書からは、高度経済成長期に突入しようとする時期の日本社会とそこに潜在するジェンダー問題の様相を読み取ることができる。

教育学や家政学研究者とともに、女性史、生活史、社会学に関心のある多くの方々に是非読んで頂きたい好書である。

（いのうえ・えみこ フェリス女学院大学）

注文カード

帖合・貴店名

〈八木書店経由〉

注文数

冊

洋装化・既製服化と被服教育
1950年代の高校学科家庭科における専門教育の展開

定価●四、四〇〇円(税込)

ISBN978-4-86617-319-1

発行 六花出版 著 宇津野花陽

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

●弊社注文制です。お近くの書店へご注文ください。
お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(3296)8787

Fax 03(3296)8788 電子メール info@rikka-press.jp

洋装化・既製服化と被服教育

1950年代の高校学科家庭科における専門教育の展開 ● 目次



序章

第1節 本書の目的と課題

第2節 分析視角

1. 女子中等教育における裁縫(衣服製作)の位置づけ
2. 衣生活(家庭生活、職業生活)の変容と被服教育の関係

第3節 先行研究の検討

1. 学科家庭科の教育機能
2. 衣生活(家庭生活)の変容と学科家庭科の被服教育との関係
3. 女子の職業機会の拡大と被服教育との関係

第4節 内容の構成



第1章 1950年代における学科家庭科の教育機能

第1節 学科家庭科の学科数・小学科数の推移

第2節 学科家庭科の教育課程と卒業後の進路

1. 私立高校に設置された被服関係学科
2. 公立高校に設置された被服関係学科



第2章 長野県における学科家庭科の被服教育

第1節 学科家庭科の設置状況

第2節 施設・設備、教員の配置、教育課程

第3節 学科家庭科卒業生の進路



第3章 愛知県、三重県、岐阜県における学科家庭科の被服教育

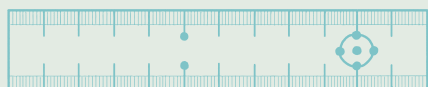
第1節 愛知県、三重県、岐阜県における繊維工業・衣服製造業

第2節 学科家庭科の設置状況

第3節 各種学校の設置状況

第4節 公共職業訓練における被服教育

第5節 新聞の求人広告にみる繊維工業・衣服製造業と被服教育



第4章 高卒女子の就職と繊維工業・衣服製造業との関係

第1節 高校卒業者の就職に関する政策

1. 学科家庭科における「職業教育」
2. 職業安定行政と学科家庭科の職業指導

第2節 繊維工業・衣服製造業への学科家庭科卒業生の就職

1. 高校卒業者数、就職者数の推移
2. 繊維工業・衣服製造業への就職の条件



第5章 衣生活および女性の生活時間の変化と学科家庭科の被服教育

第1節 都市労働者家庭の衣生活と女性の生活時間

第2節 農村労働者家庭の衣生活と女性の生活時間

第3節 学科家庭科の被服教育の専門性

1. 設置された地域の特徴
2. 被服製作の題材
3. 教員養成における被服教育



終章

第1節 総括

1. 被服関係学科の教育機能
2. 衣生活(家庭生活、職業生活)の変容と学科家庭科の被服教育との関係

第2節 1950年代における学科家庭科の被服教育の意味と職業教育としての限界——被服教育が職業教育として成立するには

第3節 今後の課題



著者紹介

宇津野花陽
(うつの・かよう)



1999年 お茶の水女子大学生活科学部卒業
2001年 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程発達社会科学専攻修了
2010年 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程人間発達科学専攻単位取得後退学
2024年 博士(社会科学)
現在 白鷗大学教育学部准教授